

「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

あいさつの意義

あいさつの意義については、日常の活動の中でも指導していますが、「道徳」の学習では、「主として人との関わりに関すること」の中の『礼儀』との関連で指導をしています。参考までに、学習指導要領にある、低・中・高学年の指導内容を記載いたします。

〔低学年〕気持ちのよいあいさつ、言葉づかい、動作などに心がけて、明るく接すること。

〔中学年〕礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。

〔高学年〕時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。

キーワードにアンダーラインを付けています。ただ機械的にあいさつをするのではなく、キーワードにあるような気持ちも、あいさつに込めてほしいと思います。

校訓の制定

学校の理念や目標をわかりやすい言葉で表現した「校訓」を、校訓制定委員会で3回に渡り検討し、委員長である河野政敏中部地区自治協議会長から発表していただきます。

次の日程で行いますので、都合がつかれたらご参観ください。

10月15日（火） 本校体育館にて

8時50分～9時10分 後期始業式

①開式のことは ②校長講話 ③作文発表（2・6年代表児童） ④閉式のことは

9時10分～9時35分 校訓制定式

①開式のことは ②校訓発表 ③決意のことは（6年代表児童） ④校長あいさつ

⑤校歌斉唱 ⑥閉式のことは

後期始業式から参観できます。体育館後方へ椅子を準備しています。

祇園歴史の旅（その48）「昔ばなし～蛇島～」

佐世保市教育委員会編集・発行 小学生向け歴史副読本『ふるさと歴史めぐり』2016年 第6版（改訂版）から引用。

「戦国の頃、佐世保城主遠藤但馬に白縫姫（しらぬいひめ）という美しい姫がいました。あるとき、飯盛城主、松浦丹後守九郎親（まつうらたんごのかみくろうちかし）が但馬館（やかた）を訪れたのですが、丹後守は姫を見て一目惚れしてしまったのです。このときすでに、姫には赤崎伊予という婚約者がいたため、丹後守の求婚を断りました。あきらめきれない丹後守は、ある夜、但馬館を襲い、姫を奪おうとしたのです。戦いが続く中、姫は館を抜け出し、将冠岳の岩穴に身を潜めました。

翌日、姫を探して丹後守の兵が岩穴に近づいたところ、なんと岩穴から白い煙と共に、真っ白い大蛇が現れたのです。驚く兵たちを尻目に白蛇は海に入り、赤崎の方に向かって泳いで行きました。ところが、その姿は途中の小島でふっつりと消え、二度と現れることはありませんでした。人々は姫の一念が白蛇に姿を変え、恋しい伊予のもとに行こうとしたのだ、と噂し合いました。以来、蛇が消えた島を『蛇島』と呼ぶようになり、姫が隠れた将冠岳の岩穴には『岩姫様』が祀られ、館のあった中通では、なぎなた踊りと共に、岩姫様の唄が歌い継がれるようになったそうです。

昔ばなし『蛇島』では、松浦丹後守九郎親は完全な悪役として描かれている。この九郎親は平戸松浦氏からの養子で、九郎親を養子に迎えたことにより宗家松浦氏は平戸松浦氏の支配下に入ることとなった。それから間もなく、佐世保を領有していた遠藤但馬守は九郎親に滅ぼされてしまった。この事件は、佐世保の人々に新しく支配者となった平戸松浦氏に対する反感を植えつけたのではないだろうか。新しい支配者に対する反感は、かつての支配者を懐かしむ気持ちを生み、その人々の想いが、昔ばなし『蛇島』として伝わったのかもしれない。」

次回は、「江戸時代の佐世保、平戸往還（街道）と佐世保」と題して、江戸時代の往還などについてご紹介いたします…。